

ベトナム

回復基調継続も感染急拡大の行方に要注意

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

主任研究員 野木森 稔

E-mail: nogimori.minoru@jri.co.jp

■力強い外需に支えられ安定成長を維持

ベトナムの2021年1～3月期実質GDP成長率は前年同期比+4.5%と、前期と同じ伸び率となった。公共投資の増勢鈍化を背景に投資が同+4.1%（10～12月期同+5.3%）と伸び悩んだ一方、消費支出は同+4.6%（同+1.5%）、輸出は同+17.0%（同+15.3%）とそれぞれ伸びを高めた。

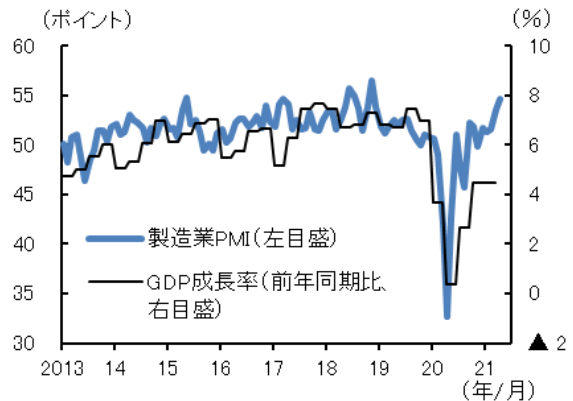
好調な消費には雇用所得環境の改善が影響している。実際、失業率は1～3月期に2.4%と、2020年4～6月期に2.7%まで悪化した後に改善が続き、賃金も1～3月期に前年同期比+0.1%と4四半期振りにプラスとなった。輸出は高い伸び率を維持し、景気を引き続きけん引している。貿易統計をみると、4月名目財輸出は前年同月比+50.8%と勢いを維持し、かねてより好調のIT関連財だけでなく、素材関連や機械等の幅広い分野での回復がみられた。4月製造業PMIは54.7と3月の53.6から上昇し、製造業が好調であることを示している（右上図）。先行きも外需に支えられた製造業が好調を維持し、投資も回復基調を強めていくことで、景気は基本的に好調が続くと見込まれる。

■これまでにないペースの感染拡大で下振れリスクが高まる

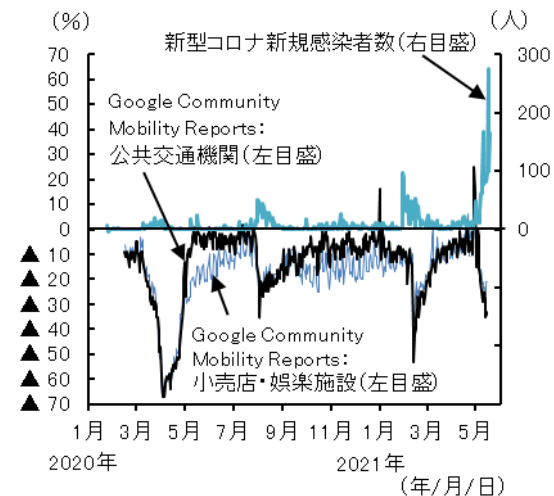
しかし、5月に入り新型コロナの感染拡大が深刻化している（右下図）。それに伴い厳しい活動規制が再開され、「Google Community Mobility Reports」によれば、すでに小売店・娯楽施設や公共交通機関での入出は基準値（新型コロナ前の曜日別中央値）を▲20%を下回る水準まで減少している。一方、5月15日時点、ベトナムでのワクチン接種率（1回以上）は全人口の1%にとどまる。16日にはCOVAXファシリティのワクチン168万回分が到着したが、すべて使用しても接種率は2.7%にとどまる。ワクチン不足分を補うため、ベトナム政府は国産ワクチンの開発を支援しており、国内メーカーは5月中にもワクチンの緊急使用の許可を得ると報道されているが、感染抑止に大きな効果をもたらすかは依然不透明である。

この春先まで、ベトナム政府は素早く活動規制を実施する等により感染抑制に成功し、景気への悪影響を最小限に抑えてきた。現在のところ、ベトナムの2021年の実質成長率は+6.6%と、2020年の+2.9%から加速すると予想している。しかし、これまでよりも深刻な感染拡大に直面するなかで、より厳しい活動規制が長期にわたり実施されることで内需が想定以上に低迷する可能性も排除できず、景気の下振れリスクにも注意する必要がある。

<ベトナム製造業PMIとGDP成長率>



<経済活動と新型コロナ感染者数>



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。